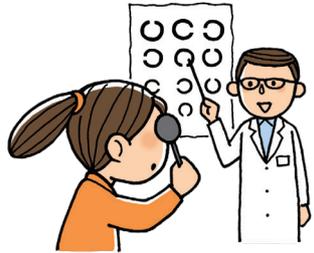


今回の精神神経発達検査では…



私たちは、日常生活の中で視力や運動能力、
“認知機能”の力など、さまざまな力を使っています。

認知機能は、視力や運動能力よりも
はかるのが難しく、専用の検査が必要です。



今回の精神神経発達検査では、認知機能の一部である注意・集中の力と、
指先の器用さを、コンピューターを使った検査ではかります。

日常で使う様々な力、認知機能

認知機能は下の図のようにさまざまな力があります。

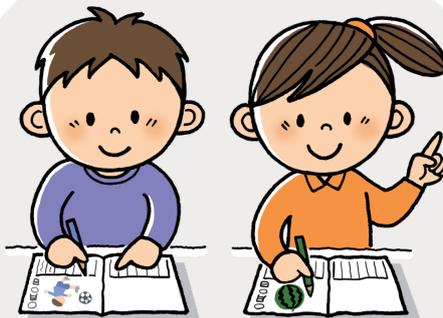
これら是一例ですが、私たちはこれらの力を意識せずに組み合わせて、
日常生活を送っています。



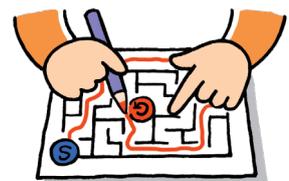
記憶の力：
ものごとを忘れずに覚えて、思い出す力。



計画・遂行の力：
うまくいくように計画を立てる力。
計画に沿って準備し行動する力。



空間認識の力：
物の大きさや形を捉える力。
奥行きを捉える力。



注意・集中の力：
注目したいものごとに意識を向ける力。
その注意を続ける力。

次のページで認知機能の一つ、注意・集中の力が働いている場面について紹介します。

日常生活で注意や集中の力が働いている場面の例

注意の持続

本を読んでいてふと時計をみたとき、「こんなに時間がたったの？」ということありませんか。その他、授業を受けるなど、一つの作業を継続して行えるのは、注意の持続の力が働いているからです。



注意の選択

駅のホームで電車が走っている時やうるさい人混みでも、一緒にいる友だちの声は聞き分けられますよね。他の音に惑わされず、友だちの声に注目できているからです。こういう時に、注意の選択の力が働いています。

注意の切り替え

例えば、料理中にチャイムが鳴ったら、料理の手をとめて、宅配便を受け取り、また料理に戻ることができますよね。こんな時、チャイムの音で料理から注意を切り替えています。



注意の振り分け

電話の声を聴きながら聞いた内容をメモしていませんか。こんな時は注意を一つのことに集中せず、耳と目と指に上手に注意を分配して作業を行っています。

記憶のはなし

記憶には手続きとして覚える記憶（一般に身体が覚えるというもの）と言葉にすることができる記憶の2種類があります。言葉にできる記憶には、知識とエピソード記憶の2つがあります。

たくさん勉強して知識を得ることも大切ですが、一緒に体験した人が共有する臨場感、質感、感動が、エピソード記憶として心の深い場所に刻まれ、人生を豊かに彩ってくれるのだと思います。

家族固有のエピソードをたくさん持つこと。これが子どもたちにとっても大切なことなのだと思います。

小枝 達也(国立成育医療研究センター こころの診療部)

※本検査は外国でも行われていますが、日本で行われた例が少なく日本の子どもでの基準が定まっていません。そのため、今回の結果をお返しすることができません。